

【NEDO、オリコンサルグローバルら 急速充電バス実用化へ マレーシアで実証実験】

急速充電バス実用化へ

NEDO、オリコンサルグローバルら マレーシアで実証試験

新エネルギー・産業技術
総合開発機構（NEDO）と
東芝インフラシステムズ、
ピューズ、ハセテック、オ
リエントタルコンサルタン
ツグローバルは、10分間の超
急速充電で30分[※]運行できる
大型EV（電気自動車）バス
システムの実用化に向け、
マレーシア・プトラジャヤ
市で実証試験を始めた。市
内4カ所に充電器を設置
し、18年3月まで10台の大

試験に使用している大型
EVバス



型EVバスを実際に走らせ
て性能実験を行う。19年度
には2階建てEVバスの走
行試験も開始。早期の実用
化を図り、同国をはじめ東
南アジア諸国への広域展開
を目指す。

プトラジャヤ市には政府
機関が集中し、環境施策に
先進的に取り組んでいる。
NEDOは一昨年7月、
市の都市交通システムの効
率向上に向け、同市と基本
協定を締結。オリエンタル
コンサルタンツグローバル
らと共同で、実証試験に使
うバスの製造・開発を進め
てきた。

現地時間の今月28日に、
市内の主要営業路線で大型

EVバスの試験走行を開始
した。試験期間は20年2月
までで、試験にかかる予算
は約36億円。試験に使用し
ているバスは長さ12[※]、10
年以上使える長寿命の急速
充電池を積んでいる。NE
DOらは、充電池の品質や
充電状態、車両の運行状況
などを遠隔監視するシステ
ムを構築し、約2年半にわ
たって充電池と車両の性能
を検証する。

NEDOの担当者による
と、EVバスの実運用に向
けた課題はコスト削減にあ
る。EVバスを製造・運行

する経費は、ディーゼル燃
料で走る従来のバスの2倍
程度になることから、実用
化までの過程で可能な限り
コスト圧縮を図りたい考え
だ。

実証試験では、NEDO
がマレーシア政府との交渉
や全体管理を担当。オリエ
ントタルコンサルタンツグロ
ーバルが運行計画作成やコ
スト試算、東芝インフラシ
ステムズとハセテックが高
性能電池の供給や充電ステ
ーションの設置、ピューズ
が車両の設計・組み立てな
どをそれぞれ担当する。